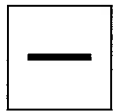


二〇二五年度・学力考査問題【国語】

(中学第三回)

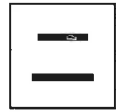
注意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は14ページで□・■・◎の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろっていない場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。また、特に指示のないかぎり、句読点も一字に数えます。



線①②のひらがなを漢字に直しなさい。

- 1 ないぞう器官の働きを調べる。
- 2 畑をこうさくする。
- 3 オーケストラをしきする。
- 4 文章をこどくする。
- 5 たまごをわる。



次の文章は、イギリスで生活する筆者が自身の体験をもとに書いたものです。筆者はある日、隣となりの家の前に、以前そこに住んでいた女性が車を停とめていたのを見つけた。これを読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは車の背後から運転席の窓に近づき、ノックした。

ああ、と一瞬間驚いたような表情をした彼女は、疲つかれたような笑えみを浮かべて窓を開けた。

「ハロー」とわたしは努めて明るく言った。

「ハロー」と彼女も笑い返す。

「何してんの、こんなところで」と本当に驚いたようにあっけらかんと言ってみた。

1 「……気がつくくと、来てしまっているのよね」と答えた彼女の目にうすら涙なみだがにじんできている。

「うちでティーでも飲んで行く？」と声をかけたが、彼女は首を振り、「ありがとう」と言って車を走らせ去って行った。

家もとに戻ってから彼女の息子の携けいたい帯※1にSMSを送った。

「あんたの母ちゃんと会った。最近、隣りんか家の前によく来ている」

「サンクス。今晚、電話してみるよ。最近ずっと落ち込んでるから」と速攻そくこうで返事が来た。

しかし、彼女が車で見に行っているのは自分が住んでいた家だけではなかったことがわかった。

「帰りに友だちと歩いて校門から出てきたら、前に隣家に住んでいたおばさんがいた」

息子がそう証言したからである。どうも家だけでなく、この地域に
対する思い出というか、未練みれんというか、そういうものが溢あふれ出してい
るようだ。

「息子は超悪ガキだったから、しょっちゅう呼び出されて謝りに行っ
てたし、中学にそんなにいい思い出があるわきゃないと思うけどな」
※2 配偶者は笑っていた。

「いいとか悪いとか、そういうことは関係なくて、すべてがきつと懐
かしいんだと思う」

「60過ぎになるまで、ずっと一つの地域しか知らなくて、一つの家で
育とどって歳を取った人間が、いきなり知らない土地に引越こして行くな
んて、なかなか大変なことをやっているなど思ったもんな、家を売り
に出したとき」

「本当は売りたい wasn't だったんだろうね」

「そういう感じは見え見えだったろう。だからいきなり絵をたくさん
描まきだしたりして、気を紛まぎらしてたのかもしれないねえしな」

※3 「売りに出したい wasn't だったのなら、どうして家を売っちゃったの？」
コンソールを両手に握にぎりしめて居間のテレビでゲームに興じている

息子が、振り向いて言った。

「子どもたちが家を買うのを手伝いたかったんだろ。家を買うときに
は頭金かぶせきんつてのがある。それで、自分の家を売ってまとまった金を渡わたし
てやりたかったんだよ」

「でも、そのために自分は住み慣れないところに住んで悲しい思いを
するのにな？」

息子が瞬まに落ちない感じでそう言うので、わたしが脇わきから答えた。

「親つてのはね、そういう風に子どものために自分を犠牲ぎせいにしたりす
るもんなのよ」

しばらく考えるように黙だまっていた息子が、わたしに尋たずねた。

「母ちゃんも、そうする？」

じつと息子がわたしの顔を見ているので、わたしはきっぱりと答えた。

「いや、しない」

息子は A と笑ってコンソールを握り直し、またゲームを再開し
ながら言った。

「僕ぼくもしないほうがいいと思う。だって、そんなことされたら、子ど
ものほうが重荷おもに感じるもん。親は親で好きに生きていてくれたほう
が、子どもはハッピーだと思うよ」

※2 その言葉どおり、(二元) 隣家の息子は母親をいたく心配していた。
その週末は、母親の新しい家を訪ね、母親が調子がよくないと愚痴ぐちつ
ている家の中の箇所かしよはすべて点検し、直せるところはすべて直したら
しい。

「引越してから、母ちゃんは物忘れが激あしくなっているというか、
ちよつと認知症にんちしよの人みたいな表情をするときがある」

彼は電話でそう言っていた。

「近所に友だちとかいないからでしょ。喋しゃべる相手がいなくて、一日中、
家に閉じこもっていると、誰だつてそういう風になる」

そう答えると、彼はほとんどため息まじりの、つらそうな口調で言っ
た。

「金なんていらなから、もう1回、あの家を買戻したほうがいい
のかなと思ったりもする。でも、姉ちゃんはもう自分の家を買う気満々

で、パートナーと物件を見て回ってるし、俺一人の決断じゃもうどうにもならない……」

「いや、お隣だつてもう新しい人たちが住んでいるし、いまさら無理でしょ。前を向いて進まない。後ろじゃなくて」

と言つて電話を切つたものの、前途は多難そうだと思つた。いまのお隣だつて、引越してきたときはカッブルと赤ん坊という家族構成だったのが、ほんの2か月の間にシングルマザーと赤ん坊の2人になって、ずっとブラインドが降りている家になった。いろいろあるなと思つた。

われわれは多難の中を生きている。

多難はわが家にも降ってきた。

極寒の1月に、暖房が効かなくなつたのである。

英国のセントラルヒーティングは、ボイラーでお湯を沸かし、それをパイプで各部屋のラディエーターに送り、そのラディエーターが各部屋を暖かくするという構造になっている。業者に來てもらつたら、わが家の場合、このパイプのどこかに詰まりが生じているそうで、全室の床を取り外して大規模工事が必要だという。「ええっ」と動揺しているうちに今度はボイラーまで故障し、熱湯も出なくなつた。

そもそも過去二十数年間、故障することもなく、したがつて修繕も何もしたことはない暖房システムである。これはもう総取り換えの時期でしよう、という話になり、一時的に引越が必要になつた。で、どうせ引越すなら、壊れたところをすべて修繕してもらふことにして建設業者を呼んで見てもらつていたところ、わが家にはアスベスト

という有害な鉱物を含む建設材料が使用されたことが判明し、全撤去せねばならないと言われて、これは本気で大掛かりな工事になるとわかつた。それでなくとも進行の遅い英国の家屋の工事である。おそらく数か月はかかる。

しかし、週単位や月単位で借りることのできる物件は、ホリデー用の豪華マンションだったりして、家賃がぎよつとするほど高い。そんな折、息子の中学の先生の1人が、「親戚がオーストラリアに引越したばかり」という耳よりの情報をくれて、その家を借りられることになつた。

が、その家も家屋内部の改装工事中で、1月末まで引越せない。暖房はポータブルのヒーターで凌げるが、熱湯がないのはつらい。そんなとき、「うちのシャワーを使つてください」と言つてくれたのが(現)隣家の母親だつた。

彼女は「困つているときはお互い様」と、サバサバと明るくわたしたちを迎えてくれた。とはいえ、親子3人で[B]毎日行くのも気が引けるので、週に何度かは市民プールのシャワーを使つて凌いだ、それでも何度も通ううち、すっかり(現)隣家の母親とも打ち解けて話ができる関係になつた。

彼女は早くも赤ん坊の教育のことを考えているようで、息子に地域の学校のことをあれこれ聞いていた。息子がカトリックの小学校に行つたことを知ると、彼女はきらりと目を輝かせ、申請するにはどんな書類が必要なのかと質問した。教区の神父からの推薦状が必要と答えると神父を紹介してくれと言われたので、その週の日曜日に一緒に教会に行つた。彼女も子どもをカトリックの学校に入れるために、赤

ん坊のうちから子どもを連れて毎週ミサに通う親たちの一人になるのだ。

「どうしてカトリックの中学校に行かなかったの？」

彼女は心底理解できないという感じで息子に尋ねた。

ポーランドから来てファイナンシャルアドバイザーとして働き、一人で住宅ローンを返しながら子どもを育てて行こうという女性だ。東欧からこの国に来る若い人々の多くがそうであるように、彼女も有能で向上心の強いタイプに見える。

「カトリックの学校は遠いから、バスを乗り継いだりして通学が大変だから……。うちは母ちゃんが車を運転できないから」

息子はそう答えた。

3 「それだけの理由で？ 友達みんなカトリックの中学に進んだんでしょ？」

4 「うん」

「みんなと同じ学校に行きたくなかったの？」

「……」

わりとズバリと物事を聞く人だなと思った。息子はちよつと口ごもっている。

「行きたくなかったってことはないけど……。でも、すぐに新しい友達ができたから。それに、いままカトリックの学校の友達とはインスタグラムで繋がっているし」

息子はシャワーの後の髪の毛をタオルで拭きながら言った。よく知らない人に、社交辞令風に、当たり前障りのない答えを返すときの人間の口調だ。息子も大人になったもんだなと妙に感心する。

「ふうん、そうなんだ」

ポーランド人の母親のほうは当たり前障りを避ける口調ではなかった。「もったいない。カトリックのほうに行けばよかったのに」という感情が透けて見える。

「あなたもそれでよかったの？」

彼女はわたしのほうを向いてそう言った。

「いや、どちらかと言えば、母ちゃんのほうが近所の学校を気に入っちゃって」

と息子が悪戯っぽく笑ったので、わたしは答えた。

「いい学校だと思ったから。もちろん、カトリックの中学は成績優秀でいい学校だけど、でも、違う意味での良さがあつた。カトリックの学校では学べないことが学べるんじゃないかなって」

ポーランド人の母親は心から意外そうな顔をして聞いていた。

9 「ビートルズのポール・マッカートニーは、最初の結婚のとき、子どもを4人ともふつうの公立の中学に行かせたらしくて。デザイナーステラ・マッカートニーのインタビューを読んだとき、彼女は最初、セレブリティーのくせに私立に行かせてくれなかった親の決断を許せなかったけど、いまは、それは彼女の人生に起きたことで最良のことだったと思ってると言っていた。自分とは違う世界で生きる人たちを知るのには健康的なことだったって」

わたしがそう言うと、ポーランド人の母親がテーブルに頬杖をついて言った。

「そういうのは、ひと昔前のロマンティックな時代の話かと思つた」もつと何かを言いたそうな言葉の響きだったが、息子もそこにいた

からだろう、彼女はそれ以上この話は続かなかった。

彼女の表情を見れば、だいたい言いたいことはわかるような気がした。現代はそんな悠長なことを言っていられる時代ではない。いい学校に行つて、いい大学に行つても仕事を見つけないのが大変な時代だ。いま親が子どものためにできることは、できる範囲で最高のアカデミックな教育を受けさせること。第一、ポール・マッカートニーのような人たちは、自分の教育理念のために子どもが失敗したとしても、一生その責任を取れるだけの財力がある。庶民が参考にするような話ではない。

この若い女性はリアリストだな、と思った。いかにもお金を専門に扱っている人らしい。

そしてこういう人と話をするのがわたしはけっこう嫌いではない。

隣家から家に戻つて、わたしは息子に聞いてみた。

6 「母ちゃんのこと、ロマンティックだと思う？」

「ははは。隣で言われてたね。そうだなあ、ぜんぜんそうじゃないときもあるし、そういうときもある。母ちゃんの場合、ちよつとそれが極端かも」

と言われた後で、わたしは彼に尋ねた。

「カトリックの学校に行かなかつたこと、後悔している？」

息子はわたしの顔を見て、ちよつと考えるような表情になつた後で言った。

「わからない」

頭をがつんと殴られたような気がした。

1年ぐらい前に同じ質問をしたときには、迷いもなく「いまの学校

にしてよかった」と彼は言ったのである。今回も同じ答えが返つてくると思い込んでいたわたしの衝撃が見て取れたのか、息子が言葉を続けた。

「なんで君みたいな、いい小学校に行つた子がここに来てるんだ」つて教室で言う子がいると、ああ僕は大きな間違いを犯しちゃつたのかなと思うし、音楽部でバンドの練習をしているときとかは、カトリックの学校じゃこれはできなかつたなと思う。どつちが正しかったのかはわからないよ。僕の身に起きることは毎日変わるし、僕の気持ちも毎日変わる」

「……」

「でも、ライフつて、そんなものでしょ。後悔する日もあつたり、後悔しない日もあつたり、その繰り返しが続いていくことじゃないの？」

人生、という日本語に訳したくないぐらい、13歳の息子が「ライフ」なんて言うのは時期尚早過ぎるのだったが、こういう言葉が出てくるぐらい、きつといま、わたしの知らないところで息子の「ライフ」はいろいろ動いているんだろうなと思った。

そして息子はもうそのことをわたしには話してくれない。

だけど、それでいい。彼もいよいよ本物の思春期に突入したのだ。

隣家からは赤ん坊の泣き声が聞こえていた。ふいに携帯が鳴り、(元隣家の息子から)さつき母ちゃんに会ってきた。今日はわりと元気だった」とメッセージが届いているのに気づいた。

7 それぞれの母と子のライフに思いを馳せた。

それは続いていくのだ。近くなつたり、遠くなつたり、繰り返して変わりながら続いていく。

いつの間にか2階に上がった息子がギターを弾いていた。ビートルズの「ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード」に聞こえたので、なんてタイミングなんだと思った。しかし、よく聴いたらぜんぜん違っていた。流行りの新しいバンドの曲かもしれないし、息子が自分で作った曲なのかもしれない。

8 いずれにせよ、それはもうわたしの知らない曲だったのである。

(ブレイデイみかこ)

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』新潮社より)

※1 SMS:携帯電話で送信するテキストメッセージのこと。

※2 配偶者:婚姻関係にあるパートナー。ここでは、「わたし」の夫のこと。

※3 コンソール:操作盤。ここでは、ゲームのコントローラーのこと。

※4 セントラルヒーティング:家全体を暖める、暖房システムの種類。

※5 ラディエーター:ここでは、熱を放出する機器のこと。

※6 カトリック:キリスト教の中で最大の教派。「ミサ」はこのカトリックで行われる礼拝のこと。

※7 ファイナンシャルアドバイザー:主に銀行や保険会社などの金融機関で、財務についてアドバイスをを行う職種。

※8 インスタグラム:SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の一種。

※9 ビートルズ:一九六〇〜一九七〇年代にかけて世界的に活躍したロックバンド。「ポール・マッカートニー」はそのメンバーの一人。

問一 —— 線 a 「腑に落ちない」・ b 「耳よりな」とありますが、

本文における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 腑に落ちない

ア 全く分からない

イ 子どもらしくない

ウ 納得ができない

エ 普通ではない

b 耳よりな

ア 聞く価値のある

イ 聞いたことのない

ウ うわさで聞いた

エ 聞き取りやすい

問二 A・Bに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア A かんかん B どんどん
イ A くすくす B ぎゅうぎゅう
ウ A からから B ぞろぞろ
エ A しみじみ B だらだら

問三 ——線1「……気がつくのと、来てしまっているのよね」とあ

りますが、「わたし」たち家族がとらえている、こうした行動を取る「彼女」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもたちの将来を思っていることとはいえ、自分が長い間育ってきた家売り、住み慣れた土地を離れてしまったことに、やり切れない思いを抱えている。
イ 六十歳を過ぎるまですつと育ってきた家や土地を離れるのは苦痛だったが、子どもたちのために親が犠牲になるのは仕方がないと、今では納得している。
ウ 子どもたちの未来のためではあるものの、長い間住んでいた家を金欲しさに売った自分を恥ずかしく思い、どうにかして家を買戻せないか悩んでいる。
エ 子どもたちのために家を売ってしまったことで、六十歳を過ぎるまですつと育ってきた家や地域への強い愛着を覚えたが、もう元に戻ることはできないとあきらめている。

問四 ——線2「その言葉（ ）心配していた」とありますが、この

時の「(元) 隣家の息子」について説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たち姉弟のために母がづらい思いをしている現状を嘆き、できることをしてあげようとしているが、自分だけで根本的な解決はできず、困り果てている。
イ 自分たち姉弟のせいで物忘れがひどくなっている母を心配しているが、それはすぐに治ることはないので、せめてこれからはできるだけ好きにさせてあげようと考えている。
ウ 仕方のない事情とはいえ、母を苦しい状況に追い込んでしまったきっかけは自分たち姉弟なので、なるべく早く救い出してあげるためにどうすれば家を買戻せるか思案している。
エ 自分たち姉弟の将来のために、家を売ってしまった母の思いを重荷に感じるものの、どうにかしてあげたいと思い、信頼できる「わたし」に相談している。

問五 ——線3「それだけの（ ）進んだんでしょ？」・4「みんな

と同じ（ ）行きたくなかったの？」とありますが、「わたし」がとらえている、「彼女」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 可能な範囲で、より手厚い教育を子供に受けさせたいと望んでいるので、やむを得ない事情でカトリックの中学校に通えなかった「わたし」の息子に同情している。

イ 将来高収入を得るためには、より高い学歴が必要であると

考えているので、「わたし」の息子がカトリックの中学校を

選ばなかったのは、家庭環境のせいではないかと疑っている。

ウ より厳しい教育こそが、子供には必要であると信じて疑っ

ていないので、「わたし」の息子がカトリックの中学校をあ

えて選ばなかったことに、驚きを隠せていない。

エ できる限り質の高い教育が、子どもの将来のためになると

信じているので、「わたし」の息子がカトリックの中学校に

通っていないことについて、全く理解できていない。

問六 —— 線5「でも、違う意味（ちが）学べるんじゃないかなって」

とありますが、「わたし」は息子にどのようなことを期待してい

るのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、

記号で答えなさい。

ア カトリック以外のキリスト教の教えについて知ること。

イ 成績優秀で将来いい大学に行く人たちのことを知ること。

ウ 普段聴くことのないジャンルの音楽について知ること。

エ 社会的な背景が異なる人たちのことを知ること。

問七 —— 線6「母ちゃんのこと、ロマンティックだと思っ？」に

ついて、後の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) ここでの「ロマンティック」の意味を説明したものととして最も

適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 理想ばかり追い求めているさま。

イ 分かりやすい魅力があるさま。

ウ 想像力が非常に豊かなさま。

エ 感情的になりすぎているさま。

(2) 「ロマンティックな考えを持つ人」と反対の意味で用いられて

いる言葉を本文中から一語で探し、抜き出しなさい。

問八 —— 線7「それぞれの母と子のライフに思いを馳せた」とあ

りますが、この時の「わたし」の心情を説明したものととして最も

適当なものを次の中から選びなさい。

ア (現) 隣家の親子も、(元) 隣家の親子も、生きる上で金銭

的な困難を強く意識しているが、それは自分達にも近い将来

起き得ることであり、他人事とは思えない。

イ (現) 隣家の親子も、(元) 隣家の親子もそれぞれの事情を

抱えているが、自分達と同様、互いの距離感をその時々で変

化させながら、一人ひとり生きていくものなのだ。

ウ (現) 隣家も自分と同じく、親が子どもを必死に世話して

いるが、いつかは(元) 隣家の親子のように、逆に親が子ど

もに助けられる時期が来るのだろう。

エ (現) 隣家の親子や(元) 隣家の親子だけでなく自分達も、

それぞれ異なる背景や考えを持っているが、親子である以上

どんな状況であっても、寄り添いながら生きていくべきだ。

問九 —— 線8「いずれにせよ曲だったのである」とあります

が、この一文から読み取れる「わたし」の思いを二十字以内で説

明しなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

社会学はその根本において規範的な学問です。

「規範」とは「くすべき」とするルールや考えであり、「規範的」とは、「いいか悪いか」「どうすればよいか」を考えようとすることです。「宇宙はいつどのようにできたのか」といった物理的な真実を明らかにすることに、規範は要りません。むしろ規範は邪魔者です。宇宙生成時に水素やヘリウムが生まれたことが「よいことだったか」「どうかを考えることには意味がありません。自然科学は、わざと規範を切り離すところから成立しています。もちろん科学そのものの成立や発展には何らかの規範が外的にからんでいます。自然科学の内部には規範は必要です。いわば「そこに山があるからだ」の世界です。

一方、社会学は、意味の連鎖の中で意味を考えようとする、それ自体が社会的なものとみなみであって、自然科学的なものととは違います。したがって、意味を考えようとする意図がなければそもそもそのいとなみは成立せず、多くの場合その意図とは、「どうすべきなのか」といった「価値」や「規範」です。そうした意図、広い意味での規範がないと、社会の何を問うかが出てこないのです。「そこに山があるからだ」ではなく、「¹その山に登ることはよいことかどうか」の世界です。

ただし、ここでいう「規範」は、最大限広い意味での「規範」です。「くすすべきだ」という狭く限定された規範である必要はありません。うっすらとした問題意識、「おかしい」という感覚、「くについて考える必要があるのではないか」という思い、そうした広い意味での

規範や価値が、社会学の調査研究を生みだします。

²デュルケムの『自殺論』は、一見個人的な行為のように見える「自殺」というものが、人口当たりの自殺数で見ると、地域によって（とくに地域の宗教によって）、また、時代によって違っていることを明らかにし、自殺が社会的な現象、社会的事実であることを明解に論じた社会学の古典です。デュルケムのこの『自殺論』は、あたりまえながら、「自殺が増えることはよくないことだ」という規範、あるいは、すくなくとも「自殺という現象は何らかの問題を有しているから考える必要がある」という「価値」がなければ成り立ちえなかつた研究です。デュルケムの時代のフランスで、研究テーマとして、自殺について考えるのか、それともファミリーネームがFで始まる人とVで始まる人のどちらが多いのかを考えるのか（当然、そんなことを考えようとする人はいなかつたわけですが）、は事実から来るのではなく、規範から来るのです。デュルケム自身、『自殺論』にかぎらず、近代社会の中で人びとはどうつながりあえるのか、どう連帯を再構築できるかということについて、探究を続けた社会学者でした。

³規範性を前面に打ち出した社会学の成果の一つに、オルデンバーグの『サードプレイス』（原題は *The Great Good Place*）があります。アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグ（一九三二～二〇二二年）は、アメリカ人の多くが自宅と職場にしかその活動場所をもっていない現状をよくないものと考え、関係のない者どうしがかかわりあうような場、みんなで楽しい時を過ごせるようなインフォーマルな公共の場が必要であると考えました。そしてそうした「インフォーマルな公共生活の

中核的環境^{ちゅうかくかんまう}」を「サードプレイス」と名付けました。家庭でも職場でもない第三の場所、それはカフェであったり、パブであったり、あるいはイタリアの食堂（タベルナ）であったり、「アメリカ西部の昔ながらの雑貨屋」であったりします。サードプレイスの特徴^{とくちょう}についてオルデンバーグはこのように言います。

サードプレイスは中立の領域に存在し、訪れる客たちの差別をなくして社会的平等の状態にする役目を果たす。こうした場所の中では、会話がおもな活動であるとともに、人柄や個性を披露^{ひろう}し理解するための重要な手段となる。（中略）サードプレイスの個性は、とりわけ常連客によって決まり、遊び心に満ちた雰囲気^{ふんいき}を特徴とする。他の領域で人びとが大真面目に関わっているのとは対照的だ。

オルデンバーグは、かつてあった、あるいは場所によっては今も存在しているそうしたものを「インフォーマルな公共生活の中核的環境^a」という類型^aで抽出^{さつしゅつ}し、現実社会の問題を解決するものとして提起^{ていし}します。そして、それがどう存在^{あつじん}しえるのか、その効果はどういうものか、ということについて議論^{ぎろん}します。そのように、現実社会との対話の中で、規範的に類型化したものとして「サードプレイス」を提起^{ていし}したのです。

この「サードプレイス」概念^{がねん}は、オルデンバーグ自身が意識して規範的に打ち出した、もつと言えはその概念を「売り出した」こともあって、たちまち世界中で広く使われるようになりました。日本でも、社

会学の内部よりむしろ、幅広く、まちづくりや社会福祉^{しゃかいしき}などの研究や実践^{じしせん}の中で「サードプレイス」概念が使われています。

オルデンバーグの「サードプレイス」ほど規範性を前面に出すかどうかはさまざまであるにせよ、社会学は本来規範的なものです。

社会学が「規範的」であるということを別の言い方に直すと、社会学の知のあり方が行動のための知、ふるまいのための知であるということになります。

人工知能の研究者である松田雄馬^{まつただゆうま}は、⁴「人工知能はなぜ椅子^{いす}に座れないのか」という本の中で、たいへん示唆^{しそく}的なことを言っています。

人間は、椅子でないもの、たとえば石を、椅子と見立てて座ることができません。疲れたから座りたいなあと考えたときに、そこに大きな石があったら、それを座るといふ行為^{こうゐ}の対象、つまり「椅子」と認識して、座ることができません。一方人工知能には（現在の設計思想の人工知能には）、そのような芸当はできません。それはなぜでしょうか。簡単に言うと、人間が身体をもち、身体で行為するからだ、というのが松田の議論です。人間は、身体をもっているからこそ、「疲れたときに座る」とか「作業するときに座る」、あるいは「リラックスして人と話すときに座る」などという「目的」を自分自身で作りに出すことができます。一方、人工知能は身体をもたず、身体で行為しないから、そうした「目的」を自分で作り出すことができません。

身体をもちながら、目的を作り出すことによって人間は、たとえば川辺の岩であろうとも、それを「椅子」として認識し、座る対象にできるのです。身体にとっての「意味」は、身体と環境との関係によって、

即興的にその場その場で作り出されていくものです。人間は「椅子」を、身体による行為の物語の中で理解しているのです。人間が椅子を認識するということは、このように、物語の中に「関係」が作り出されるということであり、それがまさに「A」を見出すということです。「A」は身体をともなった行為の中で生まれる、という指摘はとても重要で、それはそのまま社会学といういとなみにも当てはまる、と私は思います。何かに問題を感じたり、何か行動を起こさなければという規範的な意識をもつことによって、初めて社会学のいとなみが生まれるのです。

社会学が発点にする「規範」は、個人が個人の中でそれぞれ独立して作る「規範」ではありません。それは共同の「規範」です。ですから、社会学は「人びとが大事だと考えること」について考えるのです。もちろん人びとが大事だと考えることは一つでないし、あることについてその大事さ加減は人によって違います。しかし、単に個人にとつての話ではなく、みんなにとつて大事だろうと考える人がいたら、それは社会学のいとなみの出発点になります。

(宮内泰介「社会学をはじめ 複雑さを生きる技法」筑摩書房より)

問一

——線 a 「類型」・ b 「示唆的な」とありますが、本文における意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 類型

- ア 多くの要素の中で一番大事なもの
- イ 多くの要素をすべて取り混ぜたもの
- ウ 性質や特徴を整理しないまま示したもの
- エ 性質や特徴などにおいて共通点を持つもの

b 示唆的な

- ア それとなく示すような
- イ 誇張して示すような
- ウ 明確に示すような
- エ 誤って示すような

問二

——線 1 「その山に」かどうか」とありますが、そのたとえによって筆者が示そうとしているのはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 社会学とはさまざまなことからの意味を与えてくれる学問である、ということ。

イ 社会学とはどんなことからも考えられることのできる学問である、ということ。

ウ 社会学とはさまざまなことからの意味を考えていく学問である、ということ。

エ 社会学とはさまざまなことからの正確にとらえる学問である、ということ。

問三 —— 線2「デュルケムの『自殺論』とありますが、筆者は

どのようなことを示そうとして、『自殺論』を紹介しているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自殺が増えるのはよくないことであるため、そこに価値を見出すことはできない、ということ。

イ 自殺教が問題なのではなく、自殺という行為そのものがないことである、ということ。

ウ 自殺は一見個人的な行為のように思われるが、実際には社会的な現象である、ということ。

エ 自殺教やファミリーネームから、人びとのつながりを考えることができる、ということ。

問四 —— 線3「『サードプレイス』とありますが、この本はどの

ようなことを示していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 誰もが平等に参加することができて、お互いの人柄や個性を尊重しあうために会話をする場所が必要である、ということ。

イ 普段は関わりを持つことのない者同士が、家庭や職場での立場を忘れて理解しあえるような場所が必要である、ということ。

ウ 自宅や職場でそれぞれの役割を果たしている人々にとって、新しい自分の可能性を見つけるための場所は必要ない、ということ。

エ 普段は関わりを持つことのない者同士が、家族や職場の友人たちといった立場を超えて交流できる場所はすでに世の中にありふれている、ということ。

問五 —— 線4「『人工知能はなぜ椅子に座れないのか』とありま

すが、この本を紹介することで、筆者はどのようなことを示そうとしていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 身体がなければ、行為の意味しか理解することができない、ということ。

イ 行為の目的を作り出すためには、身体が必要である、ということ。

ウ 身体があるという点で、人間は人工知能より優れている、ということ。

エ 人工知能は人間の行動を理解できないので、改善の余地がある、ということ。

問六 Aに入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記

号で答えなさい。

- ア 社会
- イ 関係
- ウ 意味
- エ 身体

問七 ——線5「社会学のいとなみの出発点」とありますが、その

説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一人ひとりの違いを排除はいじょしていくことによって、すべての人々にとって大事なことを確認し、それを実現していくこととする。
- イ 古い学問を見直して、それまで大切にされてこなかったさまざまなものに注目し、それらの存在意義を考えたり再評価をしたりすること。
- ウ 多くの人々にとって大切であると思われることよりも、一人ひとりの幸せについて考え、それを実現していくこととする。
- エ 何が大事であるかは人によってそれぞれ違うということ踏ふまえたうえで、多くの人が大事だと考える事柄ことばについて、問題意識を持つこと。

問八 以下はこの文章を読んだ生徒たちの会話です。本文の内容と

合っているものには「1」を、そうでないものには「2」を、それぞれ解答欄とうかいらんに書きなさい。

ア 生徒A —— 社会学とは規範的な学問って、どういうこと

だろうと思って読み進めたら、人々はそれぞれ違う価値観を持って生きていくけれど、その違いによる争いを防いで、誰もが快適に暮らしていくために法律というものが必要なのだな、ということが実感できた。

イ 生徒B —— 筆者はデュルケムが『自殺論』で、人口当た

りの自殺数が地域や時代によって異なることを明らかにした、ということ为例に挙げているけど、自殺という好ましくない現象はどのような問題を含たくんでいるのか、という意識は規範から来るものである、ということなんだよね。

ウ 生徒C —— そうそう。筆者はオルデンバーグの『サード

プレイス』も引用して、規範をもとにして似たものを関係づけていくと、現代社会に起こっているさまざまな問題について考えるためのきっかけになるし、それらを解決するための糸口も見出すことができる、ということ言っているんだと思う。

エ 生徒D—— 最近身近になってきている人工知能の例も挙

げていたね。『座る』という行為は理解できても、『なぜ』座るかという目的を作り出すことができない。でも人工知能搭載のヒト型ロボットだったらそれが可能になる。この例は、おそらく人工知能の課題と今後の可能性を示すものなんだろうな。

オ 生徒E—— たしかに、社会学のあり方に行動が関係して

いる、という部分も興味深かったね。日常生活の中の違和感や疑問に対して、そのままにしないで、「なぜか」「どういうことか」「どうすればいいのか」と考えることが大事なんだということが理解できた。

【国語】

解答用紙 (中学第三回)

受験番号	

氏名	
----	--

得点	
----	--

一

㉑	な り ぞ う
㉒	こ う さ く
㉓	し き
㉔	じ と く
㉕	わ る

二

問一 a b 問二

問三 問四 問五

問六 問七 (1) (2) 問八

問九

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

三

問一 a b 問二

問三 問四

問五 問六 問七

問八 ア イ ウ エ オ

